

## 例 会 要 旨

2008年10月18日  
於 立教大学池袋キャンパス

### 埼玉県児玉郡美里町における観光農園事業による農村空間の商品化

深瀬浩三 (東京学芸大学 大学院生)

本発表では、埼玉県児玉郡美里町における行政主導による観光果樹園事業が、観光資源の乏しい地域にどのような影響をあたえたのかを明らかにすることを目的とした。首都100km圏内に位置する美里町は、県下でも有数の養蚕地帯であったが、生糸の価格低迷と担い手農家の高齢化などが原因で養蚕業は衰退し、農家の高齢化、後継者不足などで遊休農地が増加していった。

この問題を解消するために、1999年、町や農業委員会、農協、農林業振興センターなどからなる「観光果樹園100町歩構想推進議会」を発足させた。町とJAが連携して農業生産法人を設立し、農作業委託、加工販売まで総合的な事業運営が行われた。この事業の実施により、1999年から2003年までの期間で植栽者は473名、総植栽面積(ブルーベリー、プルーン、アンズ、ウメ)は70.3haである。なかでも、ブルーベリーでは、美里町が市町村別のブルーベリー作付面積で日本一となった。2004年4月には約70haの遊休農地が解消された。果実の販売形態は、観光農園やJA農産物直売所による販売を中心に、JAの共同出荷による市場出荷や業者へ加工原料品として販売されている。また、町内を関越自動車道が通っているため、家族連れによる日帰り観光や、旅行会社の観光ツアー客が増加している。このように、観光資源の乏しい農業地域では、行政主導の観光農園事業を契機に農村空間の商品化が進み、リピーターや観光関連業者などの存在などによって支えられている。

### アメリカ西海岸の都市観光

杜 国慶 (立教大学観光学部)

アメリカ合衆国を含めた欧米や日本などの先進諸国では、都市の観光化という現象が顕著にみられる。都市の持つ観光地としての魅力はショッピングやアミューズメント施設に限らず、歴史的景観を楽しむことや、地域イベントに参加して都市住民と交流するなど、多様な側面にわたっている。現代社会においては、あらゆるものが観光資源として商品化されるが、現代の都市はまさに観光客に対して「非日常的な体験」を提供する重要な舞台である。都市景観やイベントのみならず、そこで生活する住民さらには観光客自身も都市の構成要素の一つとであり、重要な都市観光の対象となるのである。本発表で対象としたアメリカ西海岸では、カジノで有名なラスベガスやロサンゼルス、サンフランシスコなどの大都市における都市観光がよく知られているが、現代ではいわば「普通の」都市におけるポストモダン建造物や歴史的な町並みといった都市景観、地域の風土を活かしたイベント(航空ショーなど)、あるいは同性愛者のパレードといった都市のコミュニティ活動に対して観光のまなざしとして注視することも多くなっている。都市観光は経済効果だけが期待されるものではない。観光によって都市が広く知られ、また同性愛者の存在が認知されるといった社会的効果も期待される。都市観光とは、都市を鑑賞・体験・消費する行動であるが、対象とされる観光資源や期待される効果も多岐にわたっているといえる。